

札幌響くらぶ活動報告

担当者 武藤 義典

会報「札幌響くらぶ」が1997（平成9）年1月に創刊号を発刊して以来、2010（平成22）年3月の発行で50号となりました。

会報発行も最初の1年は何とか4回の発行ができたものの2年目で編集長が仕事の都合で続けられなくなり、それに伴ってスタッフが抜けるなどで半年以上発刊できない状況が続き、年4回の発行は難しいどころか発行そのものがないことがありましたが、編集長が佐藤良次さん（現副会長）に変わって1998年10月から発行を再開することができ、以来佐藤さんは2007（平成19）年9月発行の40号まで9年の永きに亘り会報編集長を務められました。

同年12月発行の第41号からは、松尾英樹さんが編集長（事務局次長を兼任）となり2010年3月発行の第50号まで務め、同年6月発行の第51号からは編集長は募集中ですが運営スタッフ全員体制で内容を一新して発行しています。

これまでの会報で思い出に残るのは、2000（平成12）年1月発行の第11号の別冊として発行された札幌交響楽団楽員名鑑、2001年1月発行の第15号から始まった「FAN CLUBの和」、最初に登場したのが「群響を応援する県民の会（愛称群響ファンズ）」、続いて4月発行の第16号に「仙台フィルハーモニークラブ（SPC）」、10月発行の18号に「山響ファンクラブ（YFC）」、2002年7月発行の第21号で「名フィル・ファンクラブ」、2004年11月発行の第30号で「広響フレンズ」が紹介されたこと、そして創刊準備号から連載している竹津宣男さん（会員。元札幌響事務局長）が執筆している「札幌響物語」で、第51号で連載50回を迎えたことです。

「FAN CLUBの和」を始めた翌年12月14日に仙台フィルハーモニークラブが来札、札幌で初めてのファンクラブ同士の交流会が実現し、これが今のJOF Cの原点になりました。

また、昨年12月、内閣の行政刷新会議が実施した事業仕分けのうち、文部科学省関連のオーケストラに係わる子どものための優れた舞台芸術体験事業などのパブリックコメントに札幌響くらぶ及びJOF Cとして会員にも応募を呼びかけました。全国から11万件を超える応募があったと文部科学省は公表しており、この結果としての政策の継続、予算計上に関しては決して満足できるものではありませんが、一定の効果があったものと思っています。